

タルマワシモドキ

横山謙二

タルマワシモドキ *Phronimella elongata* (Claus, 1862) は、端脚目タルマワシ科タルマワシモドキ属（1属1種）に含まれ、雄の体長は7.5～12mm、雌では9～20mmほどの大きさです。本種は、海洋プランクトンとして熱帯海域に分布しますが、駿河湾では2004年3月にプランクトンネットにて採集された記録があります（森ほか，2010）。

筆者が最初に清水区三保で本種の漂着を確認したのは、2025年2月16日に雄を1個体でした。その後も、3月16日雌を1個体、20日雄1個体雌2個体、22日雌1個体の計6個体を記録しました。いずれも、遺骸でしたが同定ができる程度に保存状態の良いものでした。

その形態は、同科タルマワシ属とくらべ、第5胸肢の腕節と前節がつくる擬鉗（subchela）が小さく弱々しいもので、そして胸節第1節と2節が癒着しているため、胸節が6節（タルマワシ属は7節）しかありません。



2025年2月16日 タルマワシモドキ♂
三保飛行場近くの海岸に漂着。



2025年3月22日 タルマワシモドキ♀
三保真崎海水浴場に漂着。